



新生だより



地域の皆さんに向けて新生病院グループの「いま」を発信しています。

2024年12月7日発行 発行人:特定医療法人新生病院 理事長 大生 定義

5年ぶり! 新生病院祭 ~新生の輪、未来へ紡ぐ地域の絆~を開催



▲中庭で想いや願いを込めてシャボン玉を飛ばし記念撮影。笑顔があふれる締めくくりとなった。

10月27日(日)、病院祭を開催しました。有観客では2019年が最後、2020年はオンラインのみであったため、実に5年ぶりの開催となりました。テーマは、「新生の輪、未来へ紡ぐ地域の絆」に決定。今回は「新生病院の取り組みを知ってもらいたい・親しみをもってもらいたい」という思いと、病院祭を通じて地域の皆さんとのつながりを作りたいという思いを込めた開催でした。

当日は天気にも恵まれ、ご家族連れからご年配の方々まで幅広い世代の

約900名にご来場いただきました。屋内での講演会や催しだけでなく、屋外のキッチンカーや雑貨の販売、救急車やショベルカー展示など多くの皆さんにご協力いただき、大いににぎわいました。

病院祭をきっかけに、地域の皆さんとの「つながり」を強く感じられた一日となりました。これからもこの「つながり」を大切に、地域に根ざす病院として皆さんと共に歩んでいきます。



- ①力強く楽しい音色を響かせ、観客を魅了した小布施中学校 吹奏楽部の皆さん
- ②透き通る歌声で、心に響くハーモニーを届けてくれた栗丘小学校合唱団の皆さん
- ③認知症AR体験などを行ったリハビリ体験ブース
- ④多くの子ども達の笑顔があふれていたはたらく車ブース
- ⑤にぎわうキッチンカー・マルシェブース

須高地域三病院長による座談会

病院祭での特別講演会として、長野県立信州医療センターの竹内敬昌院長、医療法人公仁会 轟病院の長尾玄院長を迎えた地域三病院長による座談会を開催。人口減少、介護需要の急増などの状況のなか、テーマを「須高地域の医療における病院の役割」とし、それぞれの院長から各病院の沿革と病院機能・役割について語られました。

竹内院長は地域の急性期・救急医療の重要性に触れ、増加する受け入れ要請に対して適切な利用を求めていくと話されました。また、長尾院長は病院の特徴として入院経路が他院からの転院が最も多く7~8割であること、神経難病の患者さんが多く、慢性期・一般病棟では人工呼吸器が10台以上稼働していることが大きな特徴であり、他職種によるチーム医療を実践

していることが伝えられました。さらに石井院長は本年度事業計画に掲げている「地域密着型、住み慣れた地域で全人的、安全な質の高い医療・ケアの提供」「待っだけの医療から寄り添う医療へ」の具体的な取り組みについて述べました。特に高齢化による認知症患者の増加の現状から、「ユマニチュード(相手の尊厳を尊重しながら安心感や信頼感を引き出す認知症ケアの技法)」を導入。職員がこの技法の習得に励むとともに、今後も三つの柱を中心に、地域の方々の健康に寄与していきたいと締めくくりました。

今後も地域の皆さんにはそれぞれの病院の役割や機能について知っていただくと共に、私たち医療機関も地域に根差した医療を提供していきます。



▲左から司会の青木副院長(新生病院)、長尾院長(轟病院)、石井院長(新生病院)、竹内院長(信州医療センター)

地域の皆さんにお願いしたいこと

上手な医療のかかり方を心がけましょう

現在、須高地域などの高度・専門医療を支えている急性期病院に軽症の患者さんが集中することで業務が多忙となっており、待ち時間が長くなることや、医療従事者に過度な負担が生じることで、本来の病院の役割が発揮できない懸念が指摘されています。

須高地域などの医療機関の役割分担と連携体制を理解いただき、自身が病気になったときは、まずかかりつけ医を受診し、必要に応じて紹介状を書いてもらい、地域型病院や広域型病院を受診する等、上手な医療のかかり方を心がけましょう。



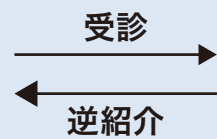
受診

地域の医療機関の役割分担と連携体制の現状



かかりつけ医
(診療所)

- 日常的な診療や健康管理・相談等に対応
- 症状に応じて適切な病院を紹介



地域型病院
例) 轟病院、新生病院

- 高齢者に多い疾患(肺炎、骨折等)の治療やリハビリに対応
- 治療を終えた方を受け入れ、安心して社会復帰・在宅復帰するまでを支援



急性期病院(広域型病院)
例) 信州医療センター、北信総合病院

- 大きなケガや病気など、高度・専門的な医療に対応
- 症状が安定した方には、今後のリハビリや在宅復帰支援のため、地域型病院への転院調整を実施

NPO法人ワンダタイム活動内容

NPO法人ワンダタイムでは、「歴史・理念伝承事業部」、「海外医療協力・被災地支援事業部」、「環境・交流事業部」の3つの事業部を設置し活動しています。今回は「環境・交流事業部」、「海外医療協力・被災地支援事業部」の取り組みを紹介します。

環境整備

「環境・交流事業部」では、年2回(5月・11月)ボランティアの皆さんと一緒に病院敷地内の花や緑の手入れを行う「緑化フェスタ」と、月に1度(6月~10月)の「緑化の日」を設けて環境整備を行っています。

今年度はさつまいもの苗植えや草取りなどを行い、11月最後の活動として畑へ腐葉土を撒き、来年の準備を行いました。一緒に活動していただいたボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。この取り組みを通じてボランティアの皆さんをはじめ、多くの方と交流しながら、より良い環境整備に努めてまいります。



▲緑化ボランティアの皆さん

バンングラデシュ海外医療派遣

「海外医療協力・被災地支援事業部」では、1991年から海外医療派遣活動を始め、現在も活動を行っています。2020年から新型コロナウイルス感染症の影響で活動休止していましたが、2023年に活動を再開。2024年5月にはバンングラデシュにて医師3名(寺島左和子・酒井洋徳・酒井典子)が医療協力活動を行いました。

今回の病院祭では、活動を行った医師から医療支援活動の様子やこれからの活動について報告しました。



▲昨年5月に活動へ参加した鳥海医師からの発表の様子

ご寄附ありがとうございました

2023年10月から約1年間、近隣をはじめ全国の皆さまから新生病院グループに多額の寄附をいただきました。温かいご支援は、病院敷地内の緑化整備や海外医療派遣の活動費とさせていただきます。

また、空気清浄機2台、絵画4点、車椅子5台もご寄附いただきました。空気清浄機、絵画は緩和ケア病棟に、車椅子は回復期リハビリテーション病棟にて大切に活用させていただきます。

ご寄附をいただきました皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。



— 特定医療法人 新生病院 —

— 基本理念 —

わたしたちはキリストの愛と精神にもとづき医療を通して全ての人々に仕えます。

1. キリストの教えと行いに学び、「全人医療」を実践します。
2. 全ての人々に、人や人種による差別なく、小布施という「地域」の中から「世界中」の人々に。
3. キリストの精神である「仕える」ことによって「新たな生」が始まります。

— 基本方針 —

1. 命の尊厳 私たちは命の尊厳を大切にした医療に取り組みます。
2. 連携 私たちは、小布施町を中心とした「地域」の中で、医療・福祉・保健・介護・行政を担う各機関との連携を通して、命の尊厳と質を患者さんとともに追求できる医療体制の構築に取り組みます。
3. 人財の育成 私たちは、業務の遂行を通して、社会に貢献することを喜びとする人財の育成に努めます。
4. 健全経営体質 私たちは、良質な医療を安定・継続して提供できるよう、健全な経営の構築に努めます。

— 特定非営利活動法人 パウル会 —

— 基本理念 —

「奉仕」「感謝」「信頼」

わたしたちは、ミスパウルを象徴とするカナダミッションの志に習い、奉仕の精神をもって地域福祉に貢献します。

わたしたちは、命の大切さを尊び、愛情と感謝の心を持ち続けます。

わたしたちは、自らの仕事に誇りを持ち、全ての人に誠実で丁寧に向き合い、信頼関係を深めます。